

【活動の主題】 ねんどとなかよし

【副題】 フロッタージュでお皿づくり・わたしだけのタワー

【学校名】

甲賀市立 油日小学校

1 本校の概要

本校は甲賀市の南西に位置し、自然豊かでのどかな田園風景が広がる場所にある。全校児童は126名、各学年1クラスずつで、素直で人懐っこい児童が多く、和気あいあいとした雰囲気です。本校はエコスクールに認定され、ビオトープを中心に環境教育に力を入れている。各学級で子どもたちが立てた「エコ宣言」をもとに、環境を意識した活動を行っている。

2 取り組んだ内容

(1) 粘土にふれる

甲賀市の伝統工芸である信楽焼の陶芸作家さんをお招きして、「土」という素材に触れ、ものを作ることの感動を味わったり、本物の芸術を体感したりすることを目的とした。特別支援学級では「フロッタージュでお皿づくり」の活動をした。粘土のかたまりにはんこなどで飾りつけをし、それをお皿の形にするというものである。3年生は「わたしだけのタワーを作る」活動をする。今年は大阪で万博が開催され、以前の万博で作られた太陽の等も話題になった。そこで、自分だけの塔を作る活動を通して、粘土で作る楽しみ、焼きあがったときの喜びなどを体感できるようにした。また、来年度、甲賀市の伝統工芸について学習する3年生に焼き物の歴史と技、さまざまな魅力について知る機会とするために、芸術家の方に来ていただいて話を聞いたり、本物の技を見たり体験したりすることで活動をより豊かなものにした。

3 活動の成果

「フロッタージュでお皿づくり」は、特別支援学級で取り組んだ。粘土をちぎって丸めたり細長くしたりして、はんこを押して模様をつくり、それをお皿の型にくっつけていくという活動をした。まず子どもたちは粘土の感触を楽しみ、どんなお皿にしようか、どんな模様をつけようか考えながら作り始めた。作り方の説明がとても丁寧で分かりやすく、支援学級の子どもたちは誰一人困ることなく、スムーズに活動は入れた。いろんな模様のはんこがあり、はんこを友だちと貸し借りしたり、友だちや見本の作品をみて、「こんな風に

したい」とイメージを膨らませたりしながら作品作りをした。陶芸の森の講師の方が途中、薄くのぼしすぎたところや弱くなりそうなところを補強してくださったのだが、そのときも子どもたちの作品が思いと違うものにならないように、「ここをもう少し分厚くしていかな」「このままだと壊れてしまうから、もう少ししようか」などと、声をかけてくださったおかげで、子どもたちはその言葉を快く受け止め、こだわりのある子どもでも、作品に少し手を入れることを嫌がることなく、作品作りを進めることができた。全員自分の思った通りの作品が出来上がり、満足そうな表情をしていたのが印象的だった。



「わたしだけのタワー」は3年生で取り組んだ。万博にちなんで、タワーをつくることにしたが、まずは粘土を細長くして円を作り、それを積み重ねて塔をつかっていった。塔の上のデザインはそれぞれ子どもたちが考えたデザインであったが、いろんな塔が出来上がり、それぞれの個性が活かされていて、すてきな作品ばかりだった。作品作りはどうしても活動が止まってしまう子やイメージがわからない子がいて、全員が時間内に作品作りを終えることが難しい。しかし、事前に資料をいただき、どんな塔を作ろうか考えることができたため、誰一人困ることなく、スムーズに活動し、全員が時間内に完成することができた。作った作品を焼くことでさらに印象が変わることを知り、焼き上がりを楽しみに待つ子どもたちの姿が印象的だった。学校の図工の授業で粘土を扱うとここまでの満足感は得られないことが多い。プロの技に触れ、楽しんで活動できたことは、子どもたちにとって大きな学びになったと考える。

